

日本文化学科では、大学生に求められるライティングスキルを高めるため、2年生前期必修科目「アカデミック・ライティング」において、夏休みの宿題として「テキスト分析」をテーマとするレポートの作成を2年生全員に課しています。このレポートは「アカデミック・ライティング」担当者が審査し、2年生後期必修科目「ゼミナール入門」内で優秀賞受賞者の報告会を開催しています。

2024年度の最優秀賞は與那原葵さんに決定しました。與那原さんのレポートをここで紹介します。



2024年度 日本文化学科2年生最優秀レポート 『英語の教科書における人種差別的表現の実態』 — 1980年代と2020年代の教科書を比較して—

23AA126 與那原 葵

はじめに

今日では日本人に限らず、様々な国や地域の人々が英語教育を受けている。よく日本人は「英語が苦手」と言われている。そもそも、日本語と英語は文字や文法が異なっており、学習に抵抗があることは仕方がないと思われる。英語が仕事や日常生活において必要でない日本人や、英語が公用語とされていない外国人など、英語が話せなくても生きていける人も存在する。では、英語教育は何を目指しているのだろうか。

今回、調査の対象とする1980年代の教科書には、学習者の興味・関心を持たせるように写真やイラストを取り入れているものが存在する。登場人物や写真には外国人も多く登場するが、その外国人が人々の「ステレオタイプ」によって形成された「白色人種の外国人」ではないかと予想した。

本レポートでは、1980年代の中学校や高等学校の英語教育に使用された教科書と2020年代の英語教育に使用されている教科書を題材に、教科書に描かれているイラストや登場人物について分析する。そして、その教科書に登場する外国人のイラストは「白色人種」が多く、「白色人種」の特徴も、「髪は明るい色」で「目は青色」、「鼻は高く」なっていて「肌の色は白い」といった「ステレオタイプ」的な特徴があるのではないかと、という仮説の下で調査を実施する。

1.1. 「人種差別」と「ステレオタイプ」

1.1.1. 「人種差別」の概要

本レポートでは英語の教科書を「人種差別」的な表現があるのではないかと、といった視点で見ていく。では「人種差別」とはどのようなものだろうか。まず語句の意味について辞書を使用しまとめると次のようになる。

『デジタル大辞泉』によると、「人種の偏見によって、ある人種を社会的に差別すること」¹（ジャパンナレッジより、2024-07-29 確認）とされている。次に『日本国語大辞典』では、「人種によって社会的な諸権利を差別すること」²（ジャパンナレッジより、2024-07-29 確認）と説明されている。また、国連総会では人権及び基本的自由の平等を確保するために「人種差別撤廃条約」が採択されている。「人種差別撤廃条約」の第一部第一条では、人種差別を次のように定義している。

人種、皮膚の色、世系又は民族的若しくは種族的出身に基づくあらゆる区別、排除、制限又は優先であって、政治的、経済的、社会的、文化的その他のあらゆる公的生活の分野における平等の立場での人権及び基本的自由を認識し、享有し又は行使することを妨げ又は害する目的又は効果を有するものをいう³（外務省ホームページより、2024-07-29 確認）

この説明を基に「人種差別」についてまとめると、「人間を人種や皮膚の色、出身地などの区別を基に、政治的、経済的、社会的、文化的な権利享有し行使することを妨げること」と定義できる。

1.1.2. 「人種差別」にみる「ステレオタイプ」

人種差別の問題を指摘する際、多用されている語句が「ステレオタイプ」である。ステレオタイプについて辞書を使用しまとめると次のようになる。

『デジタル大辞泉』では、「行動や考え方が、固定的・画一的であり、新鮮味のないこと。紋切り型。ステロタイプ」⁴（ジャパンナレッジより、2024-07-28 確認）と説明している。また、『日本国語大辞典』では、「ありふたやり方。きまりきった型。特に、心理学で人間の行動・思考・性格などが型にはまって一様であるさま。ステロタイプ」⁵（ジャパンナレッジより、2024-07-28 確認）と説明している。

これらの説明を基に「ステレオタイプ」についてまとめると、「人間の行動や、思考、性格が固定的で決まった型にはまっていること」と定義できる。

3. 英語の教科書の登場人物に関する調査

本調査では、英語教科書を「人種差別」的な表現があるのではないか、といった視点で 1980 年代に発行された英語の教科書と 2020 年代に発行された英語の教科書を調査し、それぞれ比較する。

3.1. 調査の実施方法

3.1.1. 問題意識と仮説

1980 年代の英語の教科書には「人種差別」的な表現があり、「白色人種」の外国人が多用されているのではないかと疑問を抱いた。近代の日本の外国語教育では、外国語を使用する際、他国の歴史的背景を知ることにより他者を十分に配慮できるという考えを持っている。しかし、1980 年代ではそのような意識を持っていたのだろうか。

本レポートでは、1980 年代に出版された中学校や高等学校の英語教育に使用された教科書を題材に、「外国人のイラストは「白色人種」が多く登場するのではないか」という仮説を明らかにするために、次の方法による調査を行った。

3.1.2. 調査の対象

本レポートでは、英語の教科書における外国人のイラストについて、ステレオタイプの表現が存在するか調査する。調査対象とする英語教科書については以下のように選出する。

- ・1980 年代(1980～1989 年)と、2020 年代(2020～2024 年)に出版された中学校・高等学校の英語教科書(出版社、学年は問わない)を沖縄国際大学図書館、沖縄県立図書館に所蔵しているものを参考に 1980 年代は 9 冊、2020 年代は 6 冊の合計 15 冊。
- ・テキストに登場する日本人以外の人物イラストを全て抽出する。(性別は問わない)
- ・抽象的な人物イラストや、人の形ではあるが身体的特徴が視認できない人物は除外した。

3.1.3. 調査の項目

3.1.2. で示した調査対象についてステレオタイプの表現が存在するのかを把握するため、以下の点を確認する。

- ・白色人種のイラストの登場回数
- ・有色人種のイラストの登場回数
- ・人種が分からないイラストの登場回数
- ・登場人物の髪色、肌の色、目の色、その他身体的特徴

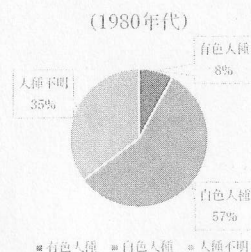
3.2. 調査の分析

3.2.1. 教科書に見られる人種の偏り

1980 年代の英語の教科書は「人種差別」的な表現があり、「白色人種」の外国人が多用されているのではないかと疑問を抱いた。

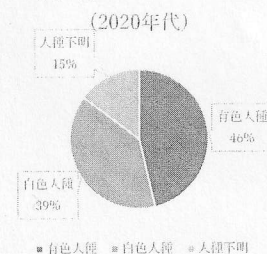
1980 年代の英語の教科書から、人物イラストを抽出したところ、次のようなことが判明した。まず、教科書に描かれているイラストに見られる人種をまとめた。(グラフ 1) すると「有色人種」の割合が全体の 8%、「白色人種」の割合が全体の 57% となっており、当初の仮説の通り、「白色人種」の偏りが見られた。

グラフ1 教科書のイラストに見られる人種



一方、2020 年代の教科書では以下になった。(グラフ 2)

グラフ2 教科書のイラストに見られる人種



1980 年代と 2020 年代の結果を比較すると、「有色人種」の割合が増加し、白色人種の比率が減少していることがわかる。具体的には、「有色人種」の割合が 8% から 46% に増加しており、その増加率は約 5 倍となっている。一方、「白色人種」の割合は 57% から 39% に減少している。「有色人種」の割合が大幅に増加したため、「白色人種」の割合も大幅に減少すると思われたが、実際にはそうっていない。ここで「人種不明」の項目に注目すると、「人種不明」の割合が、1980 年代では 35%、2020 年代は 15% となっている。

2020年代の英語の教科書では登場人物には出身国などの説明が記載されているが、1980年代の英語の教科書には、登場人物に対する出身国などの説明がほとんど記載されていなかった。よって、2020年代の中学生や高校生には、外国語教育を通して様々な国や言語、白人種以外の人種が存在することを知らせるといった狙いがあったのではないかと考えられる。

この他にも、2020年代の英語の教科書では、「有色人種」の割合が増加するだけでなく、「有色人種」と「白人種」の割合がほぼ同等の値になるという結果も読み取れる。このことから、2020年代の英語の教科書は「有色人種」と「白人種」の割合が同等になるように配慮しているのではないかと考えられる。逆に1980年代の英語の教科書にはそのような配慮は考えられていないだろう。

以上のことから、当初の仮説の通り、1980年代の英語の教科書は「人種差別」的な表現があり、「白人種」の外国人が多用されていた。

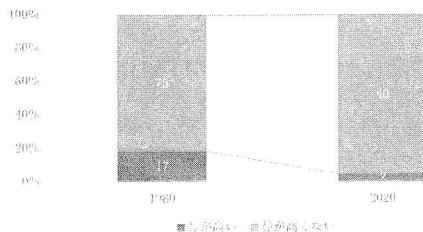
3.2.2. 教科書のイラストに見られる外見的特徴

前項では人種の偏りという観点から「人種差別」的な表現を見てきたが本項では、教科書の「白人種」のイラストに見られる外見的特徴から「鼻の高さ」と「髪の色」の描写に着目し抽出した。1980年代の英語の教科書に描かれている外国人のイラストの外見的特徴には、「ステレオタイプ」的な表現がされているのではない。

3.2.2.1. 「鼻の高さ」について

1980年代と2020年代の人物イラストを「鼻の高さ」に着目しまとめたところ、次のようなことが分かった。

グラフ3 教科書のイラストに見られる外見的特徴(鼻)



1980年代と2020年代の割合を具体的に示し比較すると、

1980年代では「鼻が高い白人種」の割合が17%、2020年代では2%となっている。

当初の仮説では、1980年代の英語の教科書のイラストでは「鼻が高い白人種」の外国人が多用されていると想定していたが、グラフ3を見ると両年代も「鼻が高くない白人種」の割合のほが多い。よって1980年代の教科書には、「白人種」に対して「鼻が高い」というステレオタイプは若干存在するが、多用はされていないと考えられる。また、2020年代の英語の教科書では「鼻が高い」といった描写はほとんど存在しなかった。このことより、1980年代でも「白人種は鼻が高い」という描写は既にタブー視されており、「鼻が高い」描写が多用されないように意識していただろう。

以上のことから、当初の仮説とは異なる結果となり、「白人種」のイラストには「鼻が高い」といった「ステレオタイプ」は多く存在しなかった。

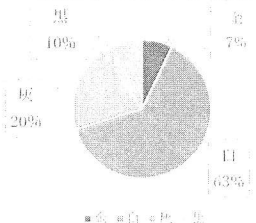
3.2.2.2. 「髪の色」について

1980年代と2020年代の人物イラストを「髪の色」に着目しまとめると、次のようなことが分かった。

1980年代の英語の教科書の人物イラストに見られる「外見的特徴」を「白人種」に限定して抽出し、以下のようにまとめた。(グラフ4)

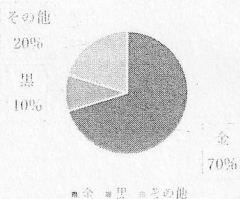
1980年代の英語の教科書の本文は、カラー印刷がされているページが少なく、ほとんどが白と黒の二色印刷なので、髪の色も白と黒が多くなる。そこで筆者は、イラストの表現技法として「白」色は黒髪とは異なった「明るい髪色」であることを表現しようと試行したのではないかと解釈し「金色」に置き換えた。また「灰」色も同様に黒髪とは異なった色の髪であること表現をしたのではないかと。しかし、「茶色」などの特定の色に限定はしていないだろうと考察し、本レポートでは「その他」の色に置き換えた。

グラフ4 教科書のイラストに見られる外見的特徴(1980年代、髪色)



以下(グラフ5)は、先程論述した筆者の解釈を基にグラフ4を置換し可視化したグラフである。

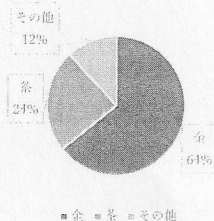
グラフ5 教科書のイラストに見られる外見的特徴(1980年代、髪色)



以下は2020年代のグラフである。(グラフ6)

2020年代の英語の教科書のイラストでは、様々な髪色の表現があった。ここでは「金色」と一括りにしているが、その「金色」でも、「明度の高い金色」や「クリーム色のような金色」など様々な色彩表現がされていた。また、「茶色」でも様々な色彩表現が見られ、「明るい茶色」や「赤みの強い茶色」などの色で描かれていた。その他の項目には様々な髪色をまとめたが、「唐紅」や「薄いピンク」、「淡い赤色」や「白髪」など様々な色彩表現が見られた。

グラフ6 教科書のイラストに見られる外見的特徴(2020年代、髪色)



1980年代の英語の教科書のイラストに見られる髪色の割合を具体的に示すと、グラフ4より、金色が7%、白色が63%、灰色が20%、黒が10%となっている。また、これらの値を置き換えたグラフ5では「金色」が70%、「黒」が10%、「その他」が20%となっている。このことから、「明るい髪色」の割合が高くなっていることが分かる。

2020年代の英語の教科書のイラストに見られる髪色の割合を具体的に示すと、グラフ6より、「金」が64%、「茶色」が

24%、「その他」が12%となっている。ここでも「明るい髪色」の割合が高くなっていることが分かる。1980年代と2020年代を比較すると、両者とも「明るい髪色」の外国人が多いという結果になった。

2020年代の英語教科書に登場する「白色人種」の外国人のイラストには様々な髪色の表現が見られたが、「暗い髪色」を持つ「白色人種」は一人も存在しなかった。「白色人種」にも「暗い色の髪」を持つ人は存在するので、2020年代の英語の教科書には「黒い髪を持つ白色人種」がいてもよいと考えられる。

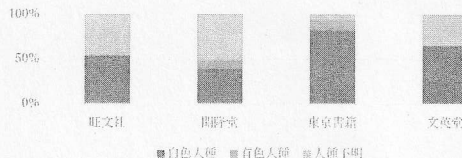
以上の結果より、当初の仮説通り「白色人種」のイラストには「明るい髪色」の外国人が多用されていた。

3.2.3. 教科書の出版社別に見られる偏り

以上のように、1980年代の英語の教科書は「白色人種」の割合が大きい。しかし、全ての英語の教科書が「白色人種」を多用していると結論付けてもよいのだろうか。1980年代の教科書でも「有色人種」が登場する教科書は存在する。このように教科書ごとに違いがあるのならば、出版社別によって偏りが出ているのではないか。

3.2.1. 「教科書に見られる人種の偏り」の調査結果を基に、「白色人種」と「有色人種」と「人種不明」の割合を出版社別にまとめた。以下のグラフは、1980年代の英語の教科書を出版社別に分けたもので、旺文社、開隆堂、東京書籍、文英堂の4社に分別することが出来た。(グラフ7)

グラフ7 教科書のイラストに見られる人種(1980年代 出版社別)



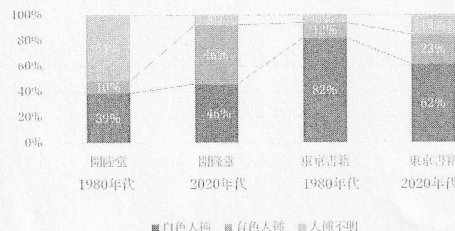
出版社別にみると、「白色人種」を多用し「有色人種」を登場させていない出版社は「旺文社」と「文英堂」であり、「人種差別」的な意識がみられる。一方、1980年代でも「有色人種」を登場させている出版社は「開隆堂」と「東京書籍」である。

「東京書籍」の各割合をみると、「有色人種」の割合は「開隆堂」より高い割合となっているが、「白色人種」の割合は4社の中では一番高い割合となっている。「開隆堂」は「白色人種」の割

合が4社の中では一番低く、「有色人種」も登場させている。また、「人種不明」の割合が一番高いことから、「開隆堂」は、1980年代でも「様々な人種を登場させよう」といった意識があっただろう。

「開隆堂」と「東京書籍」の英語の教科書が1980年代と2020年代の両方で出版されていたので「白色人種」と「有色人種」と「人種不明」の割合をそれぞれ比較していく。

グラフ8 教科書のイラストに見られる人種
(1980年代、2020年代 出版社別)



「開隆堂」と「東京書籍」の両社で「有色人種」の割合が高くなっていることがわかる。ここで、「有色人種」に注目しの割合を具体的に示すと、「開隆堂」の1980年代の割合は10%、2020年代は46%、「東京書籍」の1980年代の割合は12%、2020年代の割合は23%となっており、両社とも「白色人種」の割合が増加している。このことから、2020年代の英語の教科書は1980年代の英語の教科書よりも「有色人種」が多く登場しているということになる。

以上より、英語の教科書に見られる「白色人種」の割合は出版社別に違いがみられ、出版社によっては「有色人種」に対する意識や「白色人種」への偏りが存在することが明らかになった。

おわりに

調査の結果、「1980年代の英語の教科書に登場する外国人は「白色人種」が多く、「人種差別」的な表現があり、「白色人種」に対しても「ステレオタイプ」的な表現が存在した」という結果が得られた。また、「白色人種」に対しての「ステレオタイプ」的な表現について、「髪の色」に着目して分析すると、当初の仮説通り「白色人種」のイラストには「明るい髪色」の外国人が多く用されていた。さらに、以上の調査結果を基に出版社別に「白色人種」の登場をみた。「旺文社」と「文英堂」については、当初の仮説通り、「白色人種」の割合が高いという結果が得られたが

「開隆堂」と「東京書籍」については、「白色人種」の割合は高いが、「有色人種」の割合もみられており、この2社については1980年代で既に「様々な人種を登場させる」といった意識が読み取ることができる。

従って、1980年代に出版された英語の教科書には「白色人種」が多用されて、「人種差別」的な表現がみられたが、「白色人種」の割合は出版社によって異なり、「白色人種」だけでなく「有色人種」も使用するという意識がある出版社も存在していたことが明らかとなった。

さらに、今回の調査では2020年代の英語の教科書にも「ステレオタイプ」的な表現に関する問題点を発見した。2020年代の英語教科書に登場する「白色人種」の外国人のイラストには、様々な髪色がみられた。しかし、「暗い髪色」を持つ「白色人種」は一人も存在しなかった。「白色人種」にも「暗い色の髪」を持つ人は存在する。よって、2020年代の英語の教科書の問題点も浮上する結果となった。

今回のレポートでは、時間の都合や調査対象を集めるにあたり、沖縄国際大学と沖縄県立図書館の2館に限定したため、所蔵している英語の教科書に限りがあり、合計で15冊しか調査できなかった。そして1980年代と2020年代の英語の教科書の冊数を揃えることができなかった。また、「白色人種」と「有色人種」と「不明な人種」の判断の際、筆者の主観や筆者による基準が介入しただろう。

以上の課題や反省点をふまえて、調査対象の収集の方法やレポート作成に使用する時間の配分をもう一度見直し、今後も様々な事象における「差別的表現」や「ステレオタイプ」について考察を深めていきたい。

- 1『デジタル大辞泉』（ジャパンナレッジより）、2024-07-29 確認
- 2『日本国語大辞典』（ジャパンナレッジより）、2024-07-29 確認
- 3外務省ホームページ「あらゆる形態の人種差別の撤廃に関する国際条約 第一部 第一条」、https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/jinshu/conv_j.html 2024-07-29 確認
- 4『デジタル大辞泉』（ジャパンナレッジより）、2024-07-28 確認
- 5『日本国語大辞典』（ジャパンナレッジより）、2024-07-28 確認